

観光地課題を解決する受入環境整備 ～日本遺産「昇仙峡」を皮切りに、IOT スマートごみ箱「SmaGO」設置～

公益社団法人日本観光振興協会(本部:東京都港区 会長 山西 健一郎)は、日本たばこ産業株式会社(本社:東京都港区 代表取締役社長 寺島 正道)の Rethink PROJECT の協賛と株式会社JTB(本社:東京都品川区 代表取締役社長執行役員 山北 栄二郎)の参画の下、「観光客受入に向けた環境整備プロジェクト」を推進してまいります。同プロジェクトは、観光地の観光客受入環境整備およびSDGs推進を目的として創設されました。今回第一弾として、山梨県甲府市にある日本遺産「昇仙峡」に IOT スマートごみ箱「SmaGO」を設置します。「SmaGO」は、IOT 技術を活用したスマートごみ箱で、ごみの収集作業を効率化でき、ポイ捨て対策および CO2 排出量削減効果が期待されています。今後も各社と連携し、「SmaGO」を全国的に設置することにより、観光客の受入環境課題を解消し、持続可能な観光地づくりに貢献します。

1. 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類感染症に変更され、インバウンドも含め、国内観光が回復し、活発化しています。一方各地では、観光地課題として、オーバーツーリズムに起因するごみ問題が深刻化しています。日本の観光地は諸外国と比べてごみ箱が少なく、観光庁の令和元年度『訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート』では、外国人旅行者が訪日旅行中困ったことの第1位が「ごみ箱の少なさ」(23.4%)でした。また、持ち込みごみによる景観の悪化や安全性の観点からごみ箱の撤去が進む傾向にあり、観光客が近くのコンビニエンスストアや路上にごみを放置するケースも見受けられます。

日本遺産である昇仙峡は、例年秋の紅葉シーズンに観光客のピークを迎えます。今秋も国内外からの観光客急増が予想されており、ごみ問題対策や景観維持を目的に、IOT スマートごみ箱「SmaGO」を設置することにより、観光客の受入環境整備を実現します。

2. プロジェクト概要

本プロジェクトは、公益社団法人日本観光振興協会が事業主体となり、観光地の観光客受入環境整備及び SDGs 推進を目的に「SmaGO」の設置を推進するプロジェクトです。この度、第一弾として昇仙峡での設置が決定しましたが、今後全国展開に向け、各観光地と連携を図って進めてまいります。

【実施体制】

- | | |
|----------|-----------------------|
| ・事業主体 | ： 公益社団法人日本観光振興協会 |
| ・地域連携・運営 | ： 株式会社 JTB |
| ・協賛 | ： Rethink PROJECT(JT) |

3. 第1弾の取組概要

- 設置期間:2023年10月18日(水)~2023年12月17日(日)予定
- 設置場所及び台数:山梨県甲府市昇仙峡 ロープウェイ乗り場・山頂・仙娥滝上 3箇所
各箇所1セット2台(計3セット6台)
- 「SmaGO」設置主:甲府観光開発株式会社

4. 「SmaGO」の概要

IoT技術を活用したスマートごみ箱で、通信機能を通じて、ごみの蓄積状況をクラウド上でリアルタイムに把握できるとともに、ごみ箱が満杯になると自動的に圧縮され、通常の約5~6倍の容量を収容することが可能です。

これにより、ごみの収集作業を効率化でき、ポイ捨て対策及びCO2排出量削減効果が期待されます。

【SmaGOの特徴】

- ・ソーラーによるクリーンエネルギーでの発電
- ・赤外線センサーでごみ量をリアルタイムに感知
- ・溜まったごみを自動で約5倍に圧縮し、約600Lのごみを収容
- ・クラウド通信機能でごみの量を遠隔監視、ごみ回収業務を効率化



■報道関係の方からのお問合せ先

日本観光振興協会地域ブランド創造担当 TEL:03-6435-8550